

# 入中1年人権だより

徳島市 八万中学校  
1年生 第16号  
2020年11月9日  
編集・文責 吉成正士

## 「盲導犬ユーザー平田さんのお話」から:11月2日

今回もみなさんから寄せられた感想の一部を紹介いたします。ご覧ください。

■お話を聞くまで、盲導犬はテレビの中ぐらいでしか見えないようなものだと思っていたが、意外とすぐ近くに住んでいて、とても驚いた。

特に初めて知ったのは、盲導犬の大きな4つの仕事(まっすぐ歩く、段差を見つける、信号・交差点で止まる、障害物を避ける)です。行き先に着いていくだけではないということは今日まではよく分かりませんでした。今度もし盲導犬に触ろうとする子がいたら、止めるように言ってあげたいです。

盲導犬ユーザー平田さんと案内の練習をしたとき、普段案内をすることがないので、とても緊張したし、いつも歩いている速さだと早すぎるので、ゆっくりにしないといけないと思った。でも、次案内するときには話しかけることができそうになったから、今日のことを忘れないでおきたい。

話を聞いて、ハーネスの意味や目の見えない、見えにくい人にとっては、鉄格子が危ないということも知った。 TN

相手のことを思えば、自分のペースを変えることも必要。これは決して、目の不自由な人だけに当てはまることではなさそうですよ。自分のペースを守ること大切。でも、「共に生きる」なら、相手のペースを考えることも大切。どちらも大切です。

■僕は平田さんのお話を聞いて少し反省しました。なぜなら、一度スーパーの前で、盲導犬を連れた人が困ってそうな顔をしながら立っていたのに、スルーしてしまっただけからです。今回のお話のことを聞いて、次、目の不自由な人でなくても、困っている人がいれば、「大丈夫ですか？何かお困りですか？」と聞きます。

また、僕にはもう一つ反省点があります。それは、街中で盲導犬を連れた人に会い、盲導犬が足に近づいてきたときに、「気持ち悪い」と言ってしまいました。僕は犬にトラウマがあり、幼稚園の頃から犬が「怖い」「気持ち悪い」と感じるがあります。けれど、そうであったとしても、それを言ってしまっただけでは、ドナーさんを傷つけ、人として最低なので、とても後悔しています。次からは、もし犬のことを「怖い」「気持ち悪い」ととっさに思っても、口に出さないようにしたいです。少し時間がかかるかもしれませんが、少しでもその癖を直せるように努めます。 YD

私、子どものとき、犬、嫌いでした。低学年の頃、友達と小学校の校庭の鉄棒の所で遊んでいて、近づい

てきた子犬を友達が抱っこ。次の友達もまた抱っこ。次に私に回ってきて抱っこ。その瞬間、何か温かいものを腕に感じて見ると…。それ以来です。犬が嫌いになったのは。

でも、それ以降に家で犬を飼い、トラウマも少しずつ消えていきました。今では犬は大好きです。

何事にも好き嫌いはあるものです。でも、嫌いだからといって、まったく食べないのは、違うように思います。それが健康を害するものでないなら、たとえ嫌いであっても、少しずつでも口に入れ続けてみることをオススメします。だって、もしかしたら、いつか嫌いじゃなくなるときがくるかもしれないじゃないですか。好きになることだってあるかもしれない。それを、遠ざけて関わらないようにしてしまうのは、ちょっともったいない気がします。たとえ嫌いであっても、嫌いの中からあなた自身が何を学びとるかです。

■私は今日のお話を聴いて、最初は「へー、あ、こんな人もいるんだな～」くらいで終わってたけど、ユーザーの方のお話で改めてよく考えようと思いました。

お話の中で(?)、私は体験として平田さんの隣を歩かせていただきました。声が少し小さくて伝わりずらくて、もう少しだけ、できるだけ声を大きくしてみたら伝わって、すごく嬉しかったです。みんなの周りを1周して止まったとき、緊張していたのがスッと解けて、「あ、こんなに緊張するものだったんだ…」と思いました。でも私はもともと人とコミュニケーションがあまりとれない、いわゆる「コミュ障」で、伝わりずらかったのが、少しだけ苦しかったです。そして、これからは盲導犬ユーザーの方や他にも障がいがある人などにも話しかけたり、私から接してみたり、人とコミュニケーションがとれるようになりたいなと思いました。

今日のお話を聴いて、いろんなことが分かって、すごくいい経験にもなりました。お話が聞けて良かったです。 UM

「～でなければならぬ」と思うと声も出づらいたすが、自分のかけた声が相手に通じて、その人の役に立てば、「次も声をかけてみよう！」と思えるんじゃないかな。それは、目の見えない人にしか使えないものじゃない。いつでも、どこでも使える、魔法の言葉。「いつか」のときのために、日ごろから家庭で、学校で、町中で、「何かお手伝いできることありませんか？」を繰り返してみてもどうでしょう。

■盲導犬のことについてお話してくださって、盲導犬のことを少しは知れたと思います。

盲導犬はたくさんの訓練をして、その後にもまた目の見えない人と訓練を最低でも4週間と聞いたときは、とてもびっくりしました。やっぱり犬はとても賢いんだなー

とあらためて思いました。盲導犬に多い犬種はラブラドルだとは知っていましたが、他の犬種のことについてお話ししてくれたので、私は知らないことがいっぱいだなーと思いました。

盲導犬の主な仕事を教えてもらいました。でも仕事  
中なのに、触ったり声をかけたり、食べ物をあげたりして、盲導犬ユーザーの方が困っていると聞いて、なんだか申し訳ない気持ちになりました。杖の人と盲導犬の違いはスピードと聞いたときに、やっぱりかーと思いました。犬と杖はまったく違うものだから、少し大変そうだなと思いました。

体験を私はしなかったんですけど、他の子がしている前に説明をして、終わった後にも丁寧に説明してくれるので、やさしい人だなと思いました。目の見えないことってとても大変だと思います。けど、目の見えなくなったことなんてありません。だから目の見えない人の気持ちなんて分かってあげられません。だから少しでも楽になれるように、困っていたら声をかけたいです。

平田さん、お忙しいなか来てくれて、とても丁寧な説明をしてくれて、ありがとうございました。勉強になりました。  
MM

「私の思いは、あなたには分からない。けど、あなたの思いは、私には分からない。それでも、分からないからといって別々の道を歩いて行くのじゃなくて、やっぱり分かり合う道を選びたい。」

こんなふうに思えることが大切なんじゃないかと思えます。「分かり合えない！」と、感情的になって大切な人を失うことの方が、よほど悲しいものです。分からなくても、「対話」から目を背けないこと。向き合うことから逃げないことなのかもしれませんね。

■私はお話を聴いて、初めて知ったことがたくさんあります。その中でも、少しの差でいつも通る道でも、まったく別のものになるということが気になりました。私たちは風が強かろうが車が多かろうが、別にそんなに影響はないけど、平田さんたち目の見えない人は感覚だけが頼りだから、少しの変化がある日でも大きな影響があることが分かりました。不安な気持ちもある。けど、ウーゴちゃんたち盲導犬と一緒にいることで、平田さんたち目の見えない人も安心して過ごせるのかなと思います。それでもやっぱり、ウーゴちゃんたち盲導犬にも、できることには限りがあるので、そのときは、私も力になりたいと思います。

他にも道を歩くとき、水が溜まらないための網に苦労しているとおっしゃっていました。ウーゴちゃんがそれを避けようと跳んだりしても大変だし、白杖の人も引っかかるからです。考えてみると、見える私たちも靴が引っかかり傘なども引っかかりして、たくさんの人に不便だと思いました。この網だけでなく、他にも世の中には不便なものがたくさんあると思うので、そこは人間のもつ素晴らしい技術で補ってあげたいと思います。

質問 ウーゴちゃんがもしも病気になったり、ケガをしてしまったりしたときは、その間、平田さんはどうしているのかな？  
KH

\*

■平田さんのお話を聴いて、私は盲導犬についてほとんど知らなかったなと思いました。盲導犬は障害物をよけたり、信号待ちをしたりするけれど、それ以外はまっすぐ進むだけだという印象がありました。でも今回の講話で、歩道に車が止まっていると道が分からなくなってしまうことがあったり、犬にはこれ以外に段差を見つける役割があることを知りました。

それから、身近なことと考えていなかったけれど、同じ地域に住んでいるのは平田さんだけではないはずなので、近くにいたら声をかけてあげたいなと思いました。そのときは勇気を出して大きな声で言いたいです。ただ声をかけずに盲導犬がかわいいために勝手になでたり、ものをあげたりすると、盲導犬にとってもそのユーザーにとっても迷惑になるので、それはやめたいです。ちゃんと盲導犬のことを理解したうえで、お手伝いできることがあったらしたいです。

また、CMで盲導犬を受け入れてくれない店があることをよく聞きましたが、このような講話だけでも、犬は吠えたりせずにおとなしくいるし、平田さんのお話を聴くと、ほしい食べ物があっても机の下で伏せているようなので、盲導犬について知れば知るほど快く受け入れられると思います。私も知らず知らずのうちに、犬に対して差別する気持ちをもっていたかもしれないので、今後は盲導犬について知り、同じ仲間として優しく接して受け入れてあげたいです。

盲導犬は人間といるのが大好きだということは、人間も盲導犬といることが大好きなので、盲導犬ユーザーの方と交流する機会があれば、積極的に参加したいです。  
TN

「無知は差別を生む」という言葉があります。「知らない」ということは、いつの間にか誰かを、何かを差別したり排除してたりする、というものです。

逆にいろんなことを知っていれば、多くのことが防げるし、その知恵でよりよい社会をつくっていけます。みなさんの学びは、そういうことに使われるためにあります。目の前のテストや受験のためだけにあるわけではないのです。

12日に、1年生で第2回学年全体人権学習をします。その授業でみなさんに問うことがこれです。

1. 今までの学習で心に残ったことは何ですか。
2. それを受けて、みなさんは今後、どんな行動をしていきたいですか。

「近くて遠い支援学校」は、近くなったのでしょうか。そして、様々な「障がい」を通して、みなさんは何を学び得たのでしょうか。

もしかすると、たいして学んだことがなかったり、マイナスイメージが頭にこびりついてたりする人もいられないかもしれません。それに人間は、「分かっている」と思い上がってしまう弱さももっています。そんな自分をきちんと受け入れられるようになるためにも、しっかりと自分を見つめて授業に臨んでください。みんなで語り合うことで、さらに学びを深めましょう。